

京都府の地震活動

令和3年（2021年）7月

第34巻第7号

京都地方気象台

目次

震央分布図、概況	・・・1
震央分布図、断面図	・・・2
京都府で震度1以上の揺れを観測した地震の震度一覧表	・・・3
京都府で震度1以上の揺れを観測した地震の震度分布図	・・・4
【地震一口メモ】日本海で発生する津波を伴う地震について	・・・7

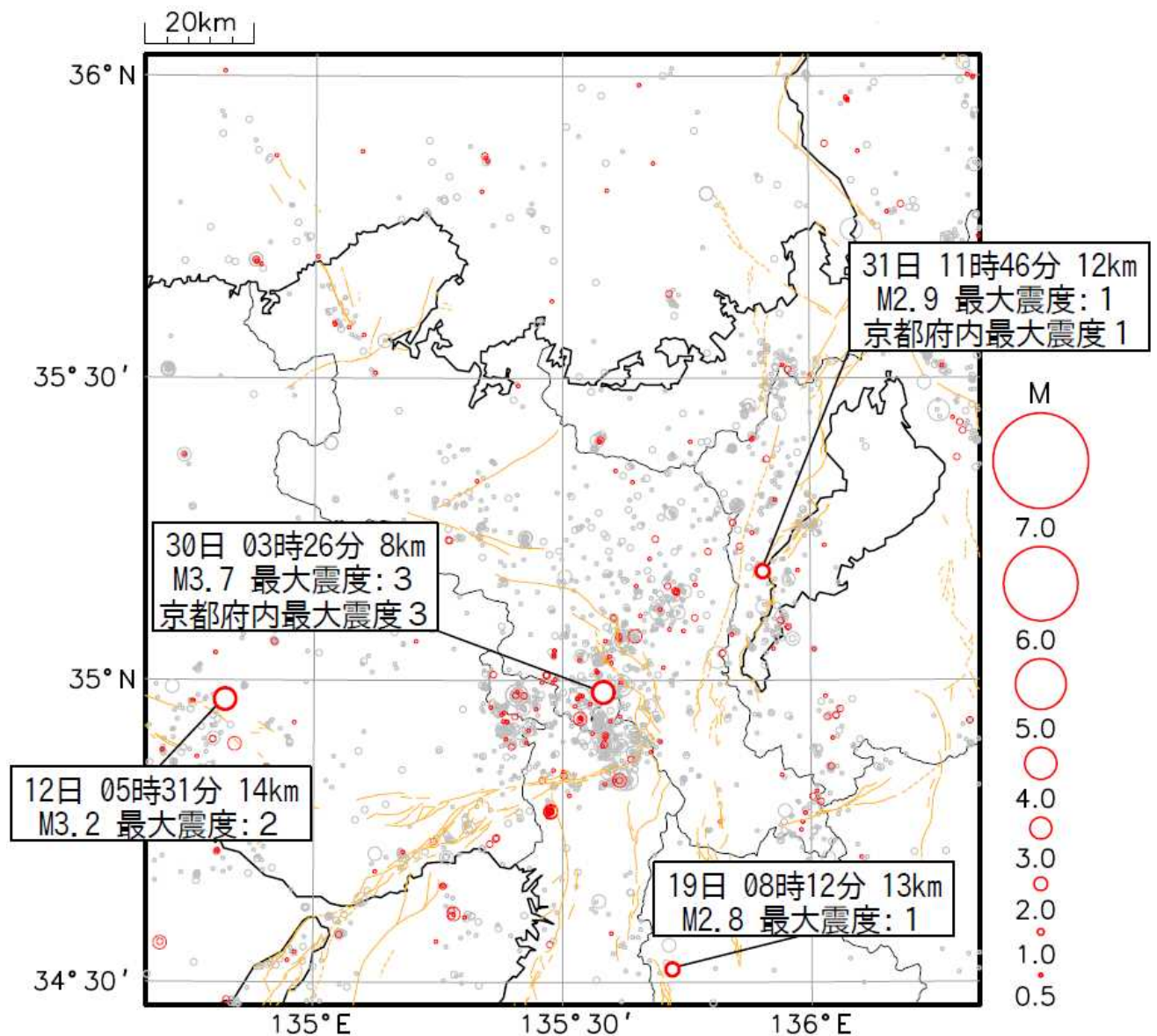
『京都府の地震活動』は、京都府及びその周辺の地震活動状況を解説するとともに、地震防災知識の普及に資するため、毎月刊行しています。

本誌に掲載した震源要素、震度データは、再調査された後、修正されることがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

震央分布図（マグニチュード0.5以上、深さ0～80km）



- ・（2020年8月1日～2021年7月31日、深さ0～80km、 $M \geq 0.5$ ）
- ・2021年7月の地震を赤く表示（総数254）
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度1以上を観測した地震には、日時、深さ、マグニチュード（M）、最大震度及び京都府内で震度を観測した地震については京都府内最大震度を付記。
- ・主要な活断層を橙色で表示

概況

7月中、震央分布図内で観測したマグニチュード2.0以上の地震は13回、震度1以上の揺れを観測した地震は4回でした（6月はそれぞれ3回、0回）。

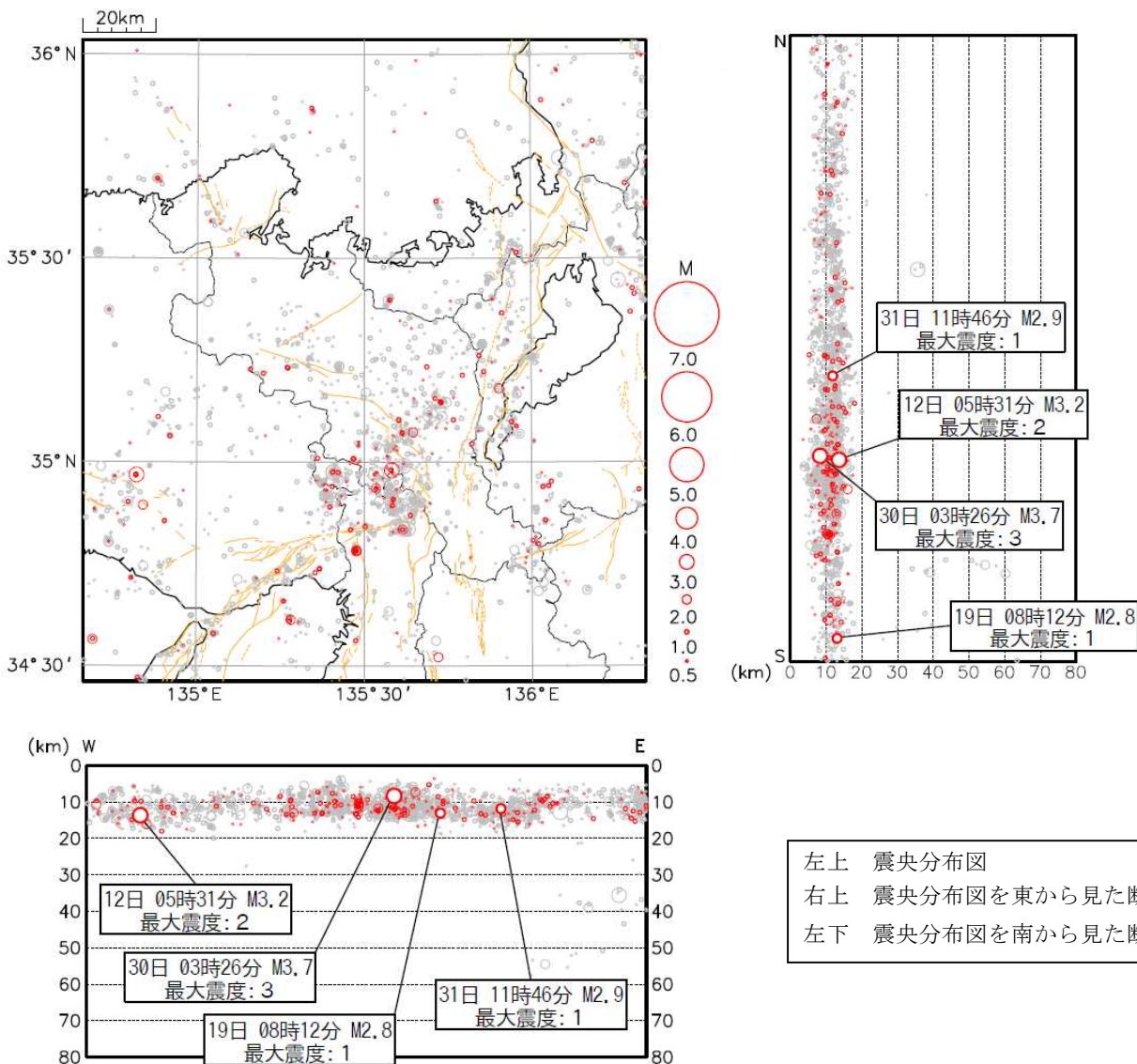
京都府内で震度1以上の揺れを観測した地震は3回ありました（6月は0回）。

30日03時26分 京都府南部の地震（M3.7、深さ8km）により、京都府亀岡市で震度3を観測したほか、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県で震度2～1を観測しました。

31日11時46分 滋賀県南部の地震（M2.9、深さ12km）により、京都府京都市左京区で震度1を観測したほか、滋賀県で震度1を観測しました。

31日13時09分 徳島県南部の地震（図の領域外：M4.5、深さ45km）により、京都府南山城村で震度1を観測したほか、東海・近畿・中国・四国地方にかけて震度3～1を観測しました。

震央分布図、断面図（マグニチュード0.5以上、深さ0～80km）



左上 震央分布図
 右上 震央分布図を東から見た断面図
 左下 震央分布図を南から見た断面図

- ・ (2020年8月1日～2021年7月31日、深さ0～80km、 $M \geq 0.5$)
- ・ 2021年7月の地震を赤く表示（総数254）
- ・ 震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・ 震度1以上を観測した地震には、日時、マグニチュード（M）、最大震度を付記。
- ・ 主要な活断層を橙色で表示

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は、沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

京都府で震度1以上の揺れを観測した地震の震度一覧表（2021年7月）

番号	観測日時		震央地名	北緯	東経	深さ	規模
	月日	時分		(度分)	(度分)	(km)	(M)
①	7月30日	03:26	京都府南部	34°58.8′	135°34.9′	8	3.7
②	7月31日	11:46	滋賀県南部	35°10.8′	135°54.2′	12	2.9
③	7月31日	13:09	徳島県南部	33°47.8′	134°37.9′	45	4.5

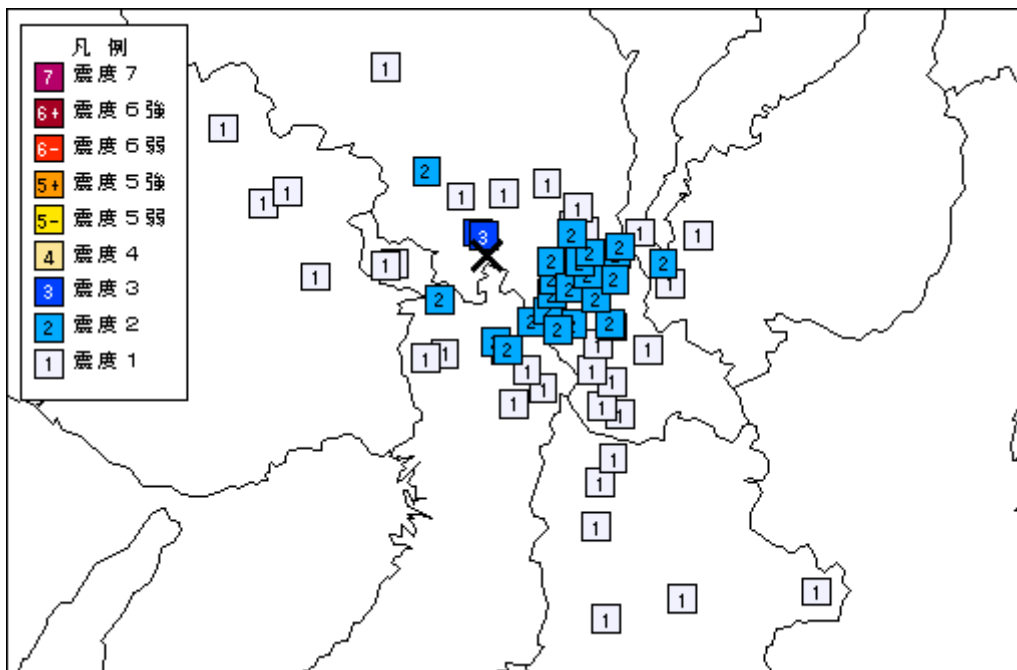
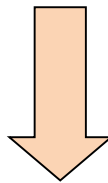
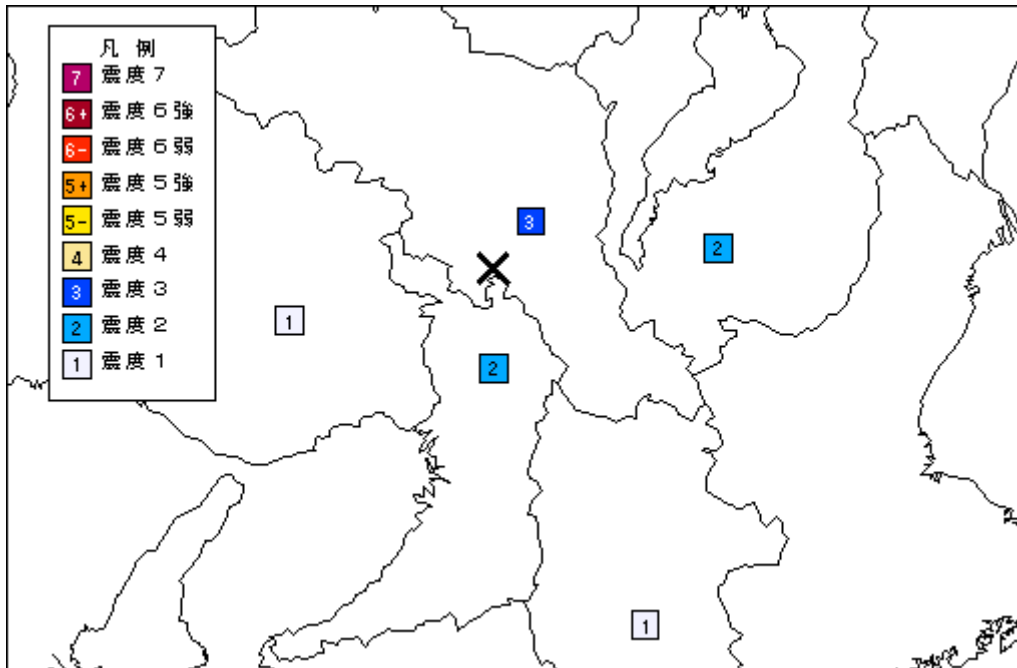
地域	震度観測点	所属	各地の震度		
			①	②	③
北 部	福知山市内記	気	-	-	-
	福知山市長田野町	防	-	-	-
	福知山市三和町千束	自	-	-	-
	福知山市夜久野町額田	自	-	-	-
	福知山市大江町河守	自	-	-	-
	舞鶴市下福井	気	-	-	-
	舞鶴市浜	防	-	-	-
	舞鶴市北吸	自	-	-	-
	綾部市若竹町	自	-	-	-
	宮津市柳縄手	自	-	-	-
	伊根町亀島	防	-	-	-
	伊根町日出	自	-	-	-
	京丹後市弥栄町吉沢	気	-	-	-
	京丹後市久美浜町広瀬	防	-	-	-
	京丹後市峰山町	自	-	-	-
	京丹後市大宮町	自	-	-	-
	京丹後市網野町	自	-	-	-
	京丹後市丹後町	自	-	-	-
	京丹後市弥栄町溝谷	自	-	-	-
	京丹後市久美浜市民局	自	-	-	-
南 部	与謝野町加悦	自	-	-	-
	与謝野町岩滝	自	-	-	-
	与謝野町四辻	自	-	-	-
	京都北区大宮西脇台町	自	1	-	-
	京都北区中川	自	1	-	-
	京都上京区藪ノ内町	自	1	-	-
	京都上京区今出川御前	自	1	-	-
	京都左京区広河原能見町	防	-	1	-
	京都左京区田中	自	-	-	-
	京都左京区鞍馬	自	-	-	-
	京都左京区花脊	自	-	-	-
	京都左京区岩倉	自	-	-	-
	京都左京区大原	自	-	-	-
	京都中京区西ノ京	気	2	-	-
	京都中京区河原町御池	自	-	-	-
	京都東山区清水	自	-	-	-
	京都下京区河原町塩小路	自	2	-	-
	京都南区西九条	自	2	-	-
	京都右京区京北周山町	自	-	-	-
	京都右京区太秦	自	-	-	-

地域	震度観測点	所属	各地の震度		
			①	②	③
南 部	京都右京区嵯峨	自	-	-	-
	京都右京区嵯峨嵯原	自	1	-	-
	京都伏見区竹田	自	2	-	-
	京都伏見区醍醐	自	2	-	-
	京都伏見区向島	自	2	-	-
	京都伏見区淀	自	-	-	-
	京都伏見区久我	自	2	-	-
	京都山科区安朱川向町	防	2	-	-
	京都山科区西野	自	2	-	-
	京都西京区榎原	自	2	-	-
	京都西京区大枝	自	-	-	-
	宇治市宇治琵琶	気	2	-	-
	宇治市折居台	防	1	-	-
	亀岡市安町	気	3	-	-
	亀岡市余部町	防	3	-	-
	城陽市寺田	自	1	-	-
	向日市寺戸町	自	2	-	-
	長岡京市開田	自	2	-	-
	八幡市八幡	自	2	-	-
	大山崎町円明寺	自	2	-	-
	久御山町田井	自	2	-	-
	京田辺市田辺	自	1	-	-
	井手町井手	自	1	-	-
	宇治市原町立川	自	1	-	-
	笠置町笠置	自	-	-	-
	和束町釜塚	自	-	-	-
	精華町南稻八妻	自	1	-	-
	南山城村北大河原	自	-	-	1
	京丹波町坂原	気	-	-	-
	京丹波町蒲生	自	-	-	-
京丹波町橋爪	自	-	-	-	
京丹波町本庄	自	1	-	-	
南丹市美山町島	自	-	-	-	
南丹市園部町小椋町	自	2	-	-	
南丹市八木町八木	自	1	-	-	
南丹市日吉町保野田	自	-	-	-	
木津川市山城町上粕	自	1	-	-	
木津川市加茂町里	自	-	-	-	
木津川市木津	自	-	-	-	

注1：所属のうち、「気」は「気象庁」、「防」は「防災科学技術研究所」、「自」は「自治体」を示しています。

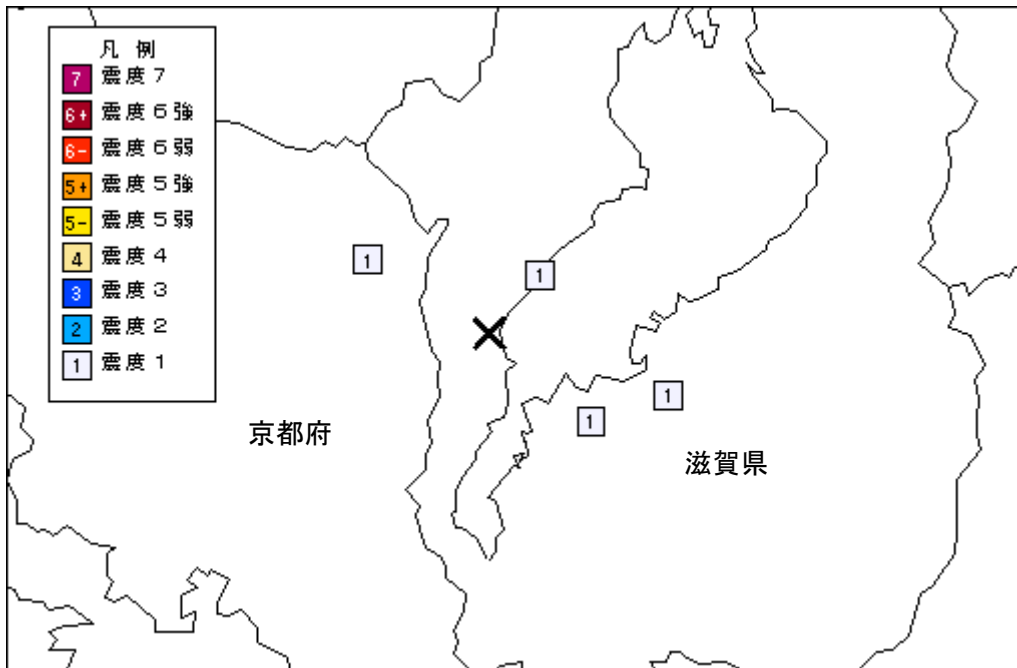
注2：表○数字は、7月に京都府内で震度1以上の揺れを観測した地震番号を表しています。

① 7月30日03時26分 京都府南部の地震 (M3.7、深さ8km) の震度分布図 (上図：地域別、下図：観測点別)



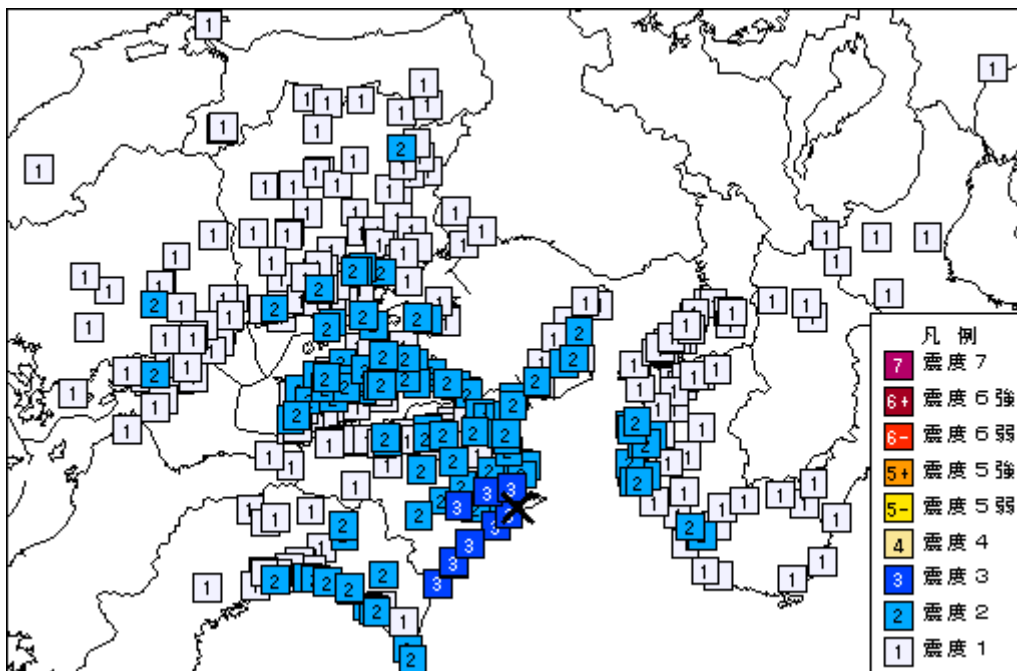
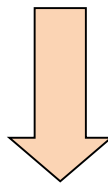
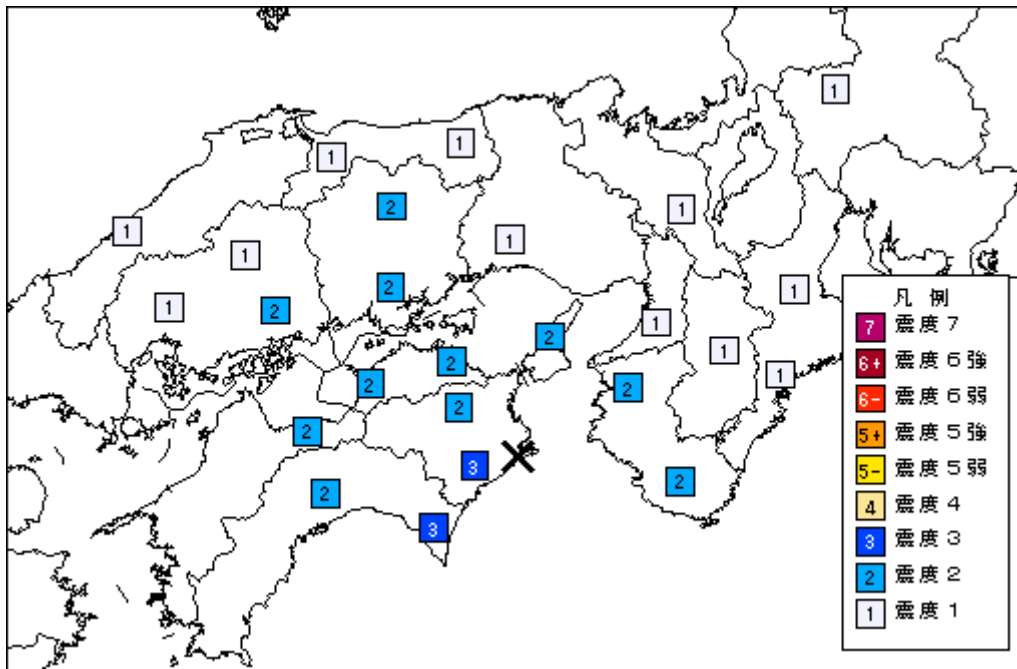
(図中の×印は震央位置)

② 7月31日 11時46分 滋賀県南部の地震 (M2.9、深さ12km) の震度分布図 (観測点別)



(図中の×印は震央位置)

③ 7月31日13時09分 徳島県南部の地震 (M4.5、深さ45km) の震度分布図 (上図：地域別、下図：観測点別)



(図中の×印は震央位置)

【地震一口メモ】

日本海で発生する津波を伴う地震について

京都府では津波は関係ないと思う方もいるかもしれませんが、過去には日本海で発生する地震によって、津波による被害を受けています。近年では、1983年に発生した日本海中部地震や1993年に発生した北海道南西沖地震により、京都府の沿岸で津波が観測されています。

国土交通省「日本海における大規模地震に関する調査検討会（平成26年9月）」の報告によると、沿岸部を含む日本海における歴史地震（ $M \geq 6$ ）の分布（下図）から津波被害をもたらした地震は、青い丸で描かれ、すべて日本海東縁部で発生していることがわかります。これらの一部の地震が、京都府にも津波被害をもたらしています。

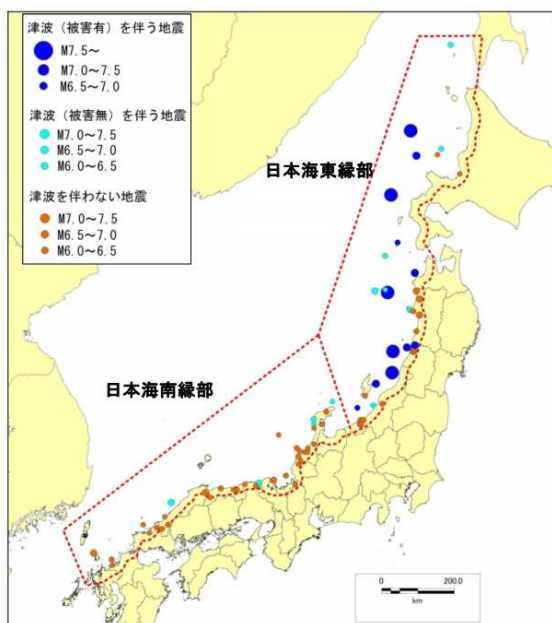


図 沿岸部を含む日本海における歴史地震（ $M \geq 6$ ）の分布
 ・主として宇佐美ほか（2013）「日本被害地震総覧[599-2012]」より作成。
 ・沿岸部（海岸より約20km以内）を含む日本海の領域にける歴史地震を示す。
 ・本検討会では日本海の沿岸部を富山湾付近を境界として、北東側を日本海東縁部、南側を日本海南縁部と呼び、区分した。
 ・津波高1m以上もしくは津波による被害の記録があるものを「大津波を伴う地震」、津波の記録はあるが被害がなかったものを「小津波を伴う地震」とした。

日本海で発生する津波の特徴として、以下の通りです。

- ・ 太平洋側の地震と同じマグニチュードであっても、断層が浅く、かつそれが高角である。そのため、海底の上下変動が大きくなり、津波が高くなりやすい。
- ・ 海岸線に近接した断層が多く、これらによる津波が到達するまでの時間が短い。
- ・ 東北沖の日本海で発生した津波は、中国地方沿岸部の津波が高くなる場合がある。これは、東北沖の日本海中央部から中国地方沿岸部にかけて海底地形の浅いところがあり、東北沖で発生した津波がこれら浅いところに集まり、それらに沿って伝播するためである。

日本海で発生する津波について、特徴をよく理解し、備える必要があります。津波は、すぐやってきます。強い揺れを感じたり、津波警報等が発表されたことを知ったら、すぐさま高台へ避難してください。

また、日ごろからの訓練も大切です。9月1日は「防災の日」、11月5日は「津波防災の日」です。京都府内では、毎年、各地で地方公共団体等による地震防災訓練や津波避難訓練が計画、実施されています。お住いの地域の情報をご確認いただき、訓練への積極的なご参加をお願いします。

国土交通省 HP 「日本海における大規模地震に関する調査検討会（平成26年9月）」

https://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/daikibojishinchousa/